

船場センタービル



大きすぎてかえって意識しない建築もある。船場センタービルがそれだ。全長は約930mで、上部には一般道と阪神高速道路の計12車線が走る。道路の傾斜に合わせて階高は1階から4階まで変化し、計10棟が内部でつながる。特に御堂筋や堺筋と交差するあたりの外観は、土木と建築が融合して圧倒的だ。豊臣秀吉の築城以来、商業の中心地として栄えた船場地区に高速道路を通すにあたって、ビルを建築し、その上に道路を構築し、ビルと道路が一体構造というアイデアで商業者の移転先を確保。ビル床の売却代金で事業費を削減し、1970年の日本万国博覧会に間に合わせた。かつての構想力や実行力の大きさ、大阪の先進性の証である。(倉方俊輔)

所在地：大阪市中央区船場中央1～4

建設年：1970年

構造・規模：RC造（一部SRC造）・2～4階、地下2階（一部地下3階）

設計：日建設計、大建設計